

社会的使命達成に向けた生保産業労使共同宣言

－ 生涯にわたり、国民・お客さまに安心をお届けし続ける産業・企業であるために －

一般社団法人 生命保険協会
全国生命保険労働組合連合会

- 私たち生保産業は、「相互扶助」の理念のもと、古くは関東大震災や世界大戦、近年では東日本大震災をはじめとする大規模災害等の中にあっても、その時々における環境変化や社会的要請等を踏まえ、「生涯にわたり、お客さまに安心をお届けする」という社会的使命を果たしてきた。今後とも私たちには、諸環境の変化に伴う国民・お客さまの不安やニーズを的確に捉え、一貫して安心をお届けし続けていく使命がある。
- 今日、わが国は、人口減少社会の中で長寿化が進行し、「人生 100 年時代」という世界でも類を見ない高齢社会を迎えている。また、全世界で猛威を振るった新型コロナウイルスの感染拡大を経て、社会全体の生活様式・行動様式や価値観が大きく変化し、将来への漠然とした不安が国民生活全般を覆っている。こうした大きな社会構造の変化を受け、これまでの経済社会システムも変革が求められている。
- このように、わが国が大きな転換期にある今、生保産業は、大きく 2 つの視点で社会課題の解決に貢献する必要がある。その 1 つは、「商品・サービス提供を通じた貢献」である。少子高齢化が進行し、持続可能で安心できる社会保障制度改革に向けた検討が進められる中、それを補完する生命保険についても、多様なニーズに沿った商品を開発・提供し続ける必要がある。また、長寿社会を迎え、国民一人ひとりが健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現するためには、生活保障産業として、安心をお届けする営業職員を中心に国民・お客さまに寄り添い、健康寿命の延伸に寄与することが求められている。加えて、「人生 100 年時代」を生きる上で、人生の早い段階で保険制度や自助努力に関する理解を深めてもらえるよう、生命保険をはじめとする金融リテラシーの向上をはかっていく必要がある。
- もう 1 つは、「地域社会への貢献」である。高齢化や過疎化の進行等、地域社会が様々な課題を抱え、その持続性・安定性が危惧されている。とりわけ地域社会を活動の基盤とすると同時に、生活の基盤としている営業職員は、地域住民・お客さまが安心・安全に暮らし続けるよう、一層貢献していく必要がある。
- 折りしも、コロナ禍は生保産業の存在意義を発揮する大きな機会となり、国民・お客さまにとっても私たち生保産業とそこで働く者にとっても、生命保険の役割を改めて認識する機会ともなった。

私たち生保産業労使は、こうした経験も活かしつつ、新たな時代がすべての国民にとって安心と活力ある社会となるよう、引き続き労使で英知を結集し、たゆまぬ努力を続けていく。

以 上